



# 共生の時代

'10  
1月

●発行:グリーンコープ共同体育理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876

## 「抱樸館福岡」は

## 私たちの希望です



社会福祉法人グリーンコープ 副理事長 奥田 知志 さん

プロフィール  
1963年生まれ。滋賀県大津市出身。学生時代に訪れた大阪市の釜ヶ崎(現あいりん地区)でボランティア活動をしたことがきっかけで、大学卒業後北九州市の東八幡キリスト教会の牧師に。認定NPO法人北九州ホームレス支援機構 理事長、ホームレス支援全国ネットワーク代表

奥

田さんが社会福祉法人グリーンコープの副理事長に就任したのは、2008年3月。福岡市のホームレス者を支援する「抱樸館福岡」の候補施設の見通しがたち、その後の牽引を一手に担うためだった。しかし地元住民の強固な反対運動が起き、8月その候補施設はあきらめざるを得なくなった。撤退の決定を聞いたのは夕方の6時。突然でした。それで翌日の10時にはもう『今後』について理事会を開くというのです。計画が白紙になれば路上にいる約1000人のホームレス者はどうなるのか。一晩で「福岡巡回計画」を作成し担当者の配置も決め、翌朝社会福祉法人グリーンコープの理事会に提案した。「昨日



の今日というのに各地から理事さんたち全員が集まってきたら、涙を流しながら口々に「奥田さんくやしかったでしょう」と言われるのです。迅速な動きと溢れるほどの共感。ああ、この人たちとなら一緒にやっていけると思いました」。北九州市で20年間のホームレス支援の実績があった。その間に行政や諸団体との関係も築いてきた。それで少しおごりがあったのかもしれないと自省した。世の中は一朝一夕には変わらない。この撤退劇で改めて、傷つく覚悟がいる」と確信した。

今の社会のありように強い危機感を持っている。競争社会を背後で支える「自己責任論」。誰もがその責め苦の中であえいでいる。ホームレス者だけではない、



若者、主婦、障がい者、働き盛りの人々。人と人との切り離され、社会全体のホームレス化は雪崩をうつつようだ。年間の自殺者も3万人を下ることはない。「人間は歴史の中で経験的に学んだことがあります。それが『人は独りでは生きられない』ということでした。人間は弱い。だからこそ『社会』をつくった。たすけあおうとさまざまな社会的なシステムをつくったのです。生活協同組合なんてその最たるものでしょう。抱樸館の人間観も『人は弱い』なんです。人間はたすけあって生きるしかないのです」。



抱樸館福岡の完成予想図

「グリーンコープの地域をつくる取り組み、その源は1987年ネグロスへの緊急救援にまでさかのぼると聞きました。目の前の飢

えた子どもたちを、組合員さんは母親として抱きとめた。その切実な思いがその後、日々の『食べもの運動』を豊かに育んできたのです。『そして今、再び路上で苦しむいのちに寄り添おうとされている。そこまで踏み込む生活協同組合は稀です。それは今の社会、自己責任社会への挑戦なんです。だからこそ私たちは協働できた』。

抱樸館福岡は現在、新たな地で建設が進められている。つくられようとしているのは「ハウス」であり「ホーム」だ。「ハウスをつくるのに必要なのは、資金」です。皆さんぜひカンパをお願いします。そして、焦点は「ホーム」。ホームって何なんだろうと思うんですよ。それはもう『無条件に帰れるところ』じゃないでしょうか。生きてさえいれば、誰であつても安心して帰れるところです。裏返せばハウスにはお金が必要ですが、ホームには誰でもなれるということです」。

一人ひとりの生き方が社会をつくるという事実に希望を託せば、抱樸館福岡の成否は私たち自身のありようにかかっている。心の舵を大きく切る時だ。

## Contents

|                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| ホームレス問題を考える 10                        |     |
| 「助けて！」が言えない<br>若年層のホームレス化             | 2   |
| うちのメーカー・うちの生産者 ②<br>旭鳳酒造(株) 日本酒       | 3   |
| …2010年を寿ぐ…                            |     |
| みんなの力を寄せあい<br>未来に夢をもてる<br>社会づくりをめざして… | 4・5 |
| ～グリーンコープのこだわり再発見～<br>グリーンコープ青果生産者の会   |     |
| 共に未来をつくっていく<br>パートナーとして               | 6   |
| 高齢者福祉学習会<br>ぼけても普通に暮らしたい              | 7   |





30歳代の野宿者に、声をかける支援機構のボランティアスタッフ

2008年秋のリーマンショックの影響による世界同時不況。格差社会の広がりに伴って増えてきた貧困層の中に若者の姿が多くなっています。ネットカフェ難民、やがて野宿者となる若者も少なくない状況です。産業の中心的労働力を担っているはずの若者たちが、なぜ巷に彷徨っているのでしょうか。NPO 法人北九州ホームレス支援機構（以下、支援機構）に取材しました。

また、路上生活に陥った状態から支援機構に出会い、新しい生き方を模索する一人の青年に話を聞きました。

## ホームレス問題を考える 10

# 「助けて！」が言えない 若年層のホームレス化

### 野宿者の年齢層の変化

50～60歳代が一番多かった野宿者の年代層が、最近少しずつ変化してきているという。これまで少なかった40歳代が多くなり、30歳代も見受けられるようになってきた。そして、ネットカフェやまんが喫茶、ファストフード店に寝泊りしている20～30歳代の若者たちが急激に増えてきている。ホームレスという自覚はないが、今日の仕事を得られなければ、野宿しかないネットカフェ難民と言われる若者たちだ。

バブル崩壊後の20年間、新自由主義のもとに終身雇用制は崩壊した。企業は正規雇用を極力減らし派遣など非正規雇用によって、人件費を大幅に削減してきた。就職氷河期と言われた十数年前から多くの若者たちがフリーターや派遣社員として、企業に都合のよい不安定な就労を強いられている。その働き方は、企業や派遣会社の都合で駒のように動かされることが多い上に、業績が悪くなれば一番はじめに解雇される。このような差別化された働き方の中で、多くの若者が夢や希望を持てなくなっている。このままの社会状況が続けば、ネットカフェで寝泊りして

いる若者たちの多くが野宿者にならざるを得ず、路上にあふれると支援機構は危惧している。

### 自己責任論がもたらした社会の歪み

急激な雇用の悪化で、就職先そのものが少なくなっており、まじめに働き安定した生活をしたと望んでも、働く場がない。個人ではどうにもならない社会状況にもかかわらず、失業状態にあることの自己責任を問われることは多い。派遣先の職場は、短かければ数カ月、長くても数年で替わる。企業への帰属意識は育たず、労働者としての権利も保障されることが少ない。また、若者たちの多くが、派遣という就労形態の中で人間関係をつくるのが困難となる傾向があるため、突然の解雇という経済的、精神的窮地に陥つても相談する人も場所もないのが現状だ。そうした状況にある多くの若者が、どうしても分からず、ひたすら自分を責め、貶めてしまい「助けて！」という言葉すら発することができないでいる。自分と問われている。責任を持った生き方をしていくことは大切なことだが、そのようにできないのが現実だ。

## 家庭を持ち、 子どもの親になりたいと 思えるようになってきた

Kさん(30歳)



高校を中退し、フリーターに。2年間は正規雇用の経験があるが、23歳から2008年の12月まで、何度も派遣会社を替えながら自動車関係の仕事をしてきた。

派遣社員は言われたことをしていればいいから、職場の人間関係は気楽だったが、一緒に遊ぶ相手はいても、悩みを相談できる友人はいなかった。給料はギャブルなどに使ってしまった。1カ月もたないことも多かった。もちろん貯金もない。結婚したいとも思わなかったし、家庭を持つ自信もなかった。その瞬間が楽しければよかった。

2008年の12月21日、派遣切りで寮を追い出された。所持金は6万円くらいしかなく、ともかく年を越さなければ仕事も探せないと思い、野宿とネットカフェやまんが喫茶で仕事が見つかるまでやり過ごそうと

考えた。ところが、野宿したその日に荷物を盗まれ一文無しになってしまった。絶望で何も考えられず、4日間食べものを口にすることもなく、ぼんやりたずんでいた時、支援機構の街頭募金活動をしているところに出会った。メンバーの1人が手招きをしてくれて、吸い寄せられるように近づき状況を話した。もし、それがなかったら、自分から近づくことは無かったと思う。その日から、自立支援住宅の集会所に寝泊りさせてもらえるようになり、その後、失業手当の手続きもできた。ともかくホッとしたというのが本音。それから、支援機構のボランティアをはじめた。その経験から、人のためになる仕事をしたいと考えるようになった。2級ホームヘルパーの資格を苦労して取得、現在就活中。

支援機構の人たちに出会

そうしようすは、若者だけではない。野宿者になっている人の多くが「どうにか生きているから、役所の世話にはなりたくない」「自分の責任だからしかたがない」と言う。自立や自己責任など、これまでの社会がつくってきた価値観や社会の歪みが貧困に陥った人々をそのように思わせているのではない。

また、多くの若者たちは、人に甘えることは自立性を損なうた恥ずかしいことで、自分が弱いからという思いが強いようだ。だから、親や家族に今の姿を見せたくないという気持ちから連絡を取らないという。派遣先

### 求められている 地域での助けあい

支援機構が最近支援したAさん(40歳代・男性)は、高齢の両親を介護しながら生活してきた。しかし、争ってばかりいる両親に我慢できなくなつて家を飛び出した。仕事は見つからず野宿するしかなくなつてしまった。Aさんは家族と暮らしていた時も、誰にどのようにならなかつたという。地域

の中には、途方に暮れていたAさんのように孤立し苦しんでいる人が必ずいる。「助けて」と声を発しない、発することができない人々だ。そういう人たちのために、直接地域に向き、ドアをノックして声をかけ、手助けが必要な人を掘り起こし、手を差し伸べる活動(アウトリーチ)が必要だ。

現在の福祉行政は、市民がさまざまな問題を抱えて行政の手助けを必要としていても、自らが申請しなければ何も動かないような仕組みになっている。いわゆる申請主義だ。行政のアウトリーチの仕組みづくりが急がれる。また、地域社会

も困っている人がいれば、積極的に隣人に声をかけ助けあうことが必要だ。

支援機構は、定期的に夜回りをしている。公園などで野宿やテント生活をしている人を訪ねて、弁当や衣類などを配りながら、困った時は連絡をしてもらえように、手紙とテレホンカードを渡している。最近、ネットカフェやファストフード店なども訪ね、困っているような人がいたら連絡できるように、受付に名刺を置いてくる。若者たちに「助けて」と言えるところがあることを知らせるために。



# 140年続く酒蔵が醸し出す

## 日本酒のおいしさと こだわり



濱村泰司さん

郁子さん



杜氏 板木博司さん

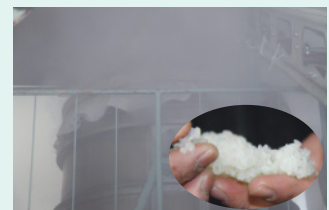
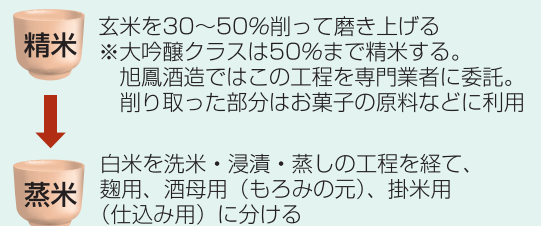


広島市の可部に、独特のこだわりを持って日本酒を醸造している酒蔵があります。それは、中国山地からの豊かな伏流水と地元の良質な原料米を使って、昔ながらの酒造りをしている旭鳳酒造(株)。代表取締役である濱村泰司さんと郁子さん夫妻、杜氏の板木博司さんに話を聞きました。

グリーンコープで取り扱っている旭鳳酒造の商品は現在16アイテム、その芳醇でまろやかな日本酒のおいしさとこだわりにズームします。



### 日本酒ができるまで

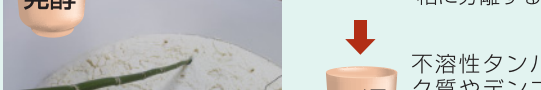


**酒母仕込**  
酒母は酒の元になるもので蒸米と麹と水を仕込んで作る。日本酒のアルコール発酵に必要な酵母を培養するために欠かせない。雑菌（特に納豆菌）の影響を受けやすいので酒母室へ菌が入らないよう入室には気をつける。温度管理など出来上がるまで目が離せない

蒸米にカビの一種である黄麹菌を繁殖させて麹を作る。麹菌の働きによって米のデンプンが分解されブドウ糖に変わる



発酵タンクに酒母・麹・水に蒸米（掛米）を加え攪拌してもろみを作る。3段階の仕込み工程があり、その都度新たに「蒸米と麹」を入れる。初添…第1次仕込（1日目）、中添…第2次仕込（3日目）、留添…第3次仕込（4日目）。タンク内の温度が一定（約12℃）になるよう、蒸米の温度調整に気を使う。初添の次の日は、タンクの中で酵母がしっかり繁殖するよう1日休む。それを「踊り」という



**発酵** 発酵タンクの中のもろみは、約20日間で糖化とアルコール発酵をする。タンク内は15℃前後に保たれる。毎日攪入を行う

旭鳳酒造の創業は、慶応元年（1865年）。地域の中で約140年の歴史を持つ酒蔵でこだわりの酒造りを行ってきた。

日本酒の原料は水と米。単純なだけに原料の良し悪しが酒の出来を左右する。醸造に欠かせない水は、太田川と根の谷川の両水系からの地下水を使っている。原料米は地元産の良質な米。選び抜かれた原料から醸造される日本酒は、地域の中で豊かに育まれてきた。そして、この永年の伝統の味は少しも変わることがない。旭鳳酒造の蔵独特の味とも言える、のどごしのよさとまろやかさが今日まで大切に維持されてきた。

「旭鳳酒造」という社名は、三代目が春の暁に見たという夢に由来する。「東にそびえる高松山に神々しく朝日が昇る。それに向かって瑞鳥である鳳凰が輝きつつ舞い上がっていった。それを瑞兆と捉え、酒名をそれまでの「新鷹山」から「旭鳳」に改めたという。

代表取締役の濱村泰司さんは、先代が急逝するまで東京で板前をしていた。長男として100年以上続いた蔵元を引き継ぐために急遽広島の実

家に戻ったのが、今から21年前のことだった。「先代がすべて一人で仕切っていましたからね。戻っても酒造りのことなど何一つ分からなかった」。ゼロからの出発でしたよ」。

大卒のことが分かるまで3ヵ月かかったという。そして歴代続いてきた酒蔵を絶やすことなく守ってきた。

### 菌や酵母が醸し出す 日本酒の奥深さ



日本酒は、米を発酵させて造られる醸造酒。しかし、米をいきなり発酵させることはできない。麹菌によって米をまず糖分に変え、そこに酵母を加えて発酵させる。人間の力が及ばない、麹菌や酵母の働きによってつくられる。その奥深さが日本酒の魅力だ。それを物語るのが、ずっと守り継がれてきた酒蔵だ。140年という歴史が重ねられてきた陰には、蔵に棲む「居つき菌（常在菌）」の存在がある。目に見えぬ菌が日本酒の醸造に深くかかわっているのだという。その居つき菌を大切に守り共生してきた。そこそが旭鳳酒造のこだわりの一つだと言える。

旭鳳酒造の杜氏になって今年で3年目という板木さんは、「酒蔵には酒蔵ごとに菌が棲み付いていて、それが酒造りに大きく影響するんです。菌の存在は見逃せません」と言う。板木さんは酒好きが高じて、26歳の頃カメラマンから杜氏になる道へと転向、いろんな酒所の蔵元を渡り歩いたという。「杜氏としてのキャリアは23年、それ程長くはありませんが、いろんな蔵元を経験している分、引き出しの数は多いと思います」と自信を覗かせる。この世界で仕事ができることが醍醐味なのだという。10月から3月までは蔵に籠もり、発酵するもろみの嘔きに耳を傾ける。「夜中2時間おきに蔵の中を見回ると聞こえてくるんですよ」シャーツ！「というもろみの発酵する音が…。もう感動です」。

「酒は生きている！」と感じる瞬間だ。

**兼重さんの世界と共鳴する**

グリーンコープとのつきあいは先代の頃にはじまった。前身生協である共生社と30年以上前から取り引きがあったが、濱村さんはその詳しいいきさつを知らない。濱村さん

自身が初めて出会ったグリーンコープの関係者は、当時連合の初代専務理事だった故兼重正次さん、強烈に魅力的な人間だったという。兼重さんが唱えるBMW技術のミクロの世界と、麹菌や蔵の居つき菌があつてこそ酒造りの世界が見事に共鳴した。大きな自然の摂理の中で確かな存在として蠢く菌の存在を、兼重さんも濱村さんも感じることができた。感性を持ちあわせていたのだ。兼重さんにはうちの蔵にいる菌が見えていたんだと思います。さまざまな地域を一緒に旅し、最後となった時兼重さんが履いていたズックを手元に置いています。私の宝物ですよ」。

こうした経緯から、酒造工程で使われる大量の水の排水処理をBMW技術で行うことに。そのためのプラントもつくった。BMW技術協会を通じて「生物活性水BMそら」製造の仕事も請け負っている。

### 守るべき 日本の食文化

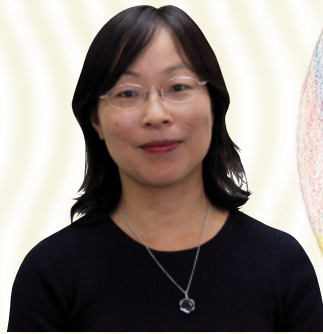


日本酒は、味噌や醤油と同じ発酵食品。特に麹菌というカビを使うのは日本だけだ。今般の日本酒離れに、旭鳳酒



…2010年を寿ぐ…

あけましておめでとうございます。今年、グリーンコープ生協おおさかは設立してから5周年を迎え、仲間の輪は大きく広がりました。大阪という大きなエリアの中ではまだまだ小さな存在ですが、「グリーンコープが大好き」という仲間がたくさんになるように、今年も元気に活動すすめていきたいと思っています。どうぞよろしく願います。



中村 富美子 理事長

グリーンコープ生協おおさか

みなさま、あけましておめでとうございます。グリーンコープ生協ひょうごでは、昨秋初めての「お祭り」を開催しました。組合員はもちろん、たくさんの方、そしてきれいにぬりえを塗ってきたくれた小さなお友だちに出会うことができました。本年もたくさんの方と出合えよう、楽しいことを計画したいと思います。ひょうごのみなさん、その際にはぜひご参加ください。設立6年目のひょうごをよろしく願います！



長沼 浩美 理事長

グリーンコープ生協ひょうご

# あいもてるくりをめざして…

縮に向かっていきます。その影響がもろに市井の会は、多くの人の未来への夢や希望を奪って困難な時代が招来されかねません。い、人間のあるべき姿を求めていこうとしていそれらをめざして、私たちの夢を実現するため



あけましておめでとうございます。互恵のためのアジア民衆基金設立総会で、一昨年お会いしたインドネシアの方と再会しました。グリーンコープの活動を続けてきて本当によかったと思える出来事でした。改めて、グリーンコープのすばらしさは、人と人とのつながりを大切にすることだと実感しました。2010年は、おかやまの組合員にも、食べものや地域福祉などの取り組みを通して、人とのつながりを感じてもらえるようにすすめていきたいと思っています。



坂口 陽子 理事長

グリーンコープ生協おかやま

昨年春から理事長に就任し、日々奮闘しながらも、たくさんの方々に支えていただいていた新しい年を迎えることができました。2010年はまず、組合員が生協運営にしっかりと参加し「私たちのグリーンコープ」を実感できる地区総会の開催、そして「地区組合員の過半数の出席による成立」に向けて検討を重ねています。経済のこと、環境のことなど不安はさまざまですが、「やっぱりグリーンコープだね」を合言葉に仲間の輪をもっともとつと広げていけるよう、今年も頑張ります。



松村 理津子 理事長

グリーンコープやまぐち生協

あけましておめでとうございます。昨年、グリーンコープ運動をさらに地域に根付かせるために、ふくおかの21店舗を地域の中に位置づけ、地域委員会を立ち上げました。「地域を知り、地域に根ざし、地域の組合員と共に」を共有し、さまざまな活動を元気にすすめた1年でした。さあ今年も地域の中で「生命を育む食べもの運動」をいねいに取り組んでいこうと思います。組合員・組合事務局・ワーカーズ・職員の四つの主体の力を寄せあい、すすめていきます。



田原 幸子 理事長

グリーンコープ生協ふくおか

あけまして、おめでとうございます。昨年、くまもとでは店舗の位置付けを「お店共同購入」とし、ワーカーズと共に検討をすすめ、組合員が「私たちのお店」と実感できるようになりました。また「地域運動交流集会inくまもと」を12月に開催。組合員、ワーカーズ、専従が一堂に会し、共に運動、事業をすすめる仲間として連携していくことを確認しました。厳しい社会状況ではありますが、これからもたくさんの方々と繋がり、さらなるグリーンコープ運動の広がりをにつくっていききたいと思います。



久米田 薫 理事長

グリーンコープ生協くまもと

組合員のみずみずしい感性で元気にグリーンコープの活動ができますように！わがグリーンコープのマスコット「元氣くん」の名前のように、今年も元気なグリーンコープを世の中に発信できるようにしたいですね。社会が変化の兆し、その中で変わらざるをえず「安心、安全、安定」を貫く。偉業を成し遂げた人たちは毎日変わらぬスタイルをコツコツと継続してきたと聞きます。日々の生活を大切に今年もがんばろうと…。



奥田 富美子 理事長

グリーンコープ生協おいた



新年あけましておめでとうございます。16年ぶりの政権交代と騒がれている中で、私たちの暮らしはまだまた不安材料でいっぱいです。そんな中、グリーンコープでは、フードマイレージの取り組みを行ったり、互恵のためのアジア民衆基金設立総会が開催されたりと着実に歩んでいます。島根では地域福祉の取り組みを意識しつつ、歩みは遅々としたものですが、心新たに組合員みなさんと共に、島根の地域を豊かにしていくために一歩一歩すすんでいきたいと思っています。



角 幸恵 理事長



相野 香 理事長

とっとりは今年20周年になります。昨年は大試食会で地域の人たちにグリーンコープを知ってもらったことができました。次は長年、東部地区で待っている組合員のために新デポ建設を成功させるだけです。一歩一歩ですが、仲間づくり、利用普及の取り組みを頑張る、みんなで一丸となって新デポ建設成功に向かいたいと思います。今年初めて「地区組合員総会」を開催します。「やればできる!」という言葉を合言葉にして頑張ります。

### グリーンコープ生協(島根)

### グリーンコープ生協とっとり



林 和子 理事長

あけましておめでとうございます。ひろしまが支部理事会制になって2年になります。支部が主体となって地域に根ざすことをめざし、模索しながら一歩ずつすすんでいるところです。地域の中でグリーンコープを身近に感じる活動をすすめて、組合員一人ひとりがグリーンコープの主役であることを発信していきたいと思っています。今年「顔と顔の見える関係」を体現する活動を深めていき、グリーンコープのよさを実感していただき、「生命を育む食べもの」を守り、次の子どもたちの世代へ繋いでいきたいです。

### グリーンコープ生協ひろしま

## みんなの力を寄せ 未来に夢を 社会づ

世界同時不況によって、世界はもちろん日本の経済も収入者の暮らしにまで及んでいます。また、増幅する格差社会。このままでは人間が人間らしく生きていくことさえそんな時代だからこそ、グリーンコープは生命に寄り添います。人と人の絆の回復、そこに依拠した地域の再生…、に、今年も大きな一歩を踏み出しました。

長崎では2010年から本格的に「組合員総会」を開催します。ひとりでも多くの組合員に参加してもらえよう、参加する側も、開催する側も楽しい総会をめざして、準備・検討をすすめていきます。また、新規加入者のフォローにも力をいれて取り組みます。せっかく加入したグリーンコープを、暮らしの中に定着させてながいおつきあいの組合員になってもらえるよう働きかけていきます。今年も長崎は元氣だぞっ!



高橋 純子 理事長

### グリーンコープ生協(長崎)

新年あけましておめでとうございます。昨年、グリーンコープ生協さがは、設立20周年をこれまで支えてくださったみなさまと共に祝い、未来に向かって新たな歩みをスタートしました。今年度は、昨年行ったブレ地区組合員総会の経験を生かし、2月に「組合員総会」を開催します。一人でも多くの組合員に参加してもらえよう総会を、心一つにしてめざしたいと思っています。今年も、元気で楽しい活動をとおり、グリーンコープの輪を佐賀に広げていきたいと思っています。



田中 裕子 理事長

### グリーンコープ生協さが



杉尾 紀美子 理事長

新年おめでとうございます。今年は理事長4年目になり、何かと身の引き締まる思いです。昨年4月から、福祉活動組合員基金の拠出がはじまり、みやざきでの地域福祉の取り組みも広がってきました。自分たちができること、地域で求められていることを考え、みなさんの100円を大切に活用したいと考えています。みやざきで、さらにグリーンコープの輪が広がるように元気に活動していきます。みなさんもいろいろな取り組みに参加してくださいね!

### グリーンコープ生協みやざき



川原 ひろみ 理事長

昨年は、世界大恐慌、金融危機、不況、就職難、嫌な言葉が目に入らない日はなかった年でした。そんな中でも多くの方と出会い、想いを紡ぐことができました。今年もまた、この不況に負けないように、いや、こんな時代だからこそ、より多くの方と絆を結び、グリーンコープ運動や想いを広げていきたいと思っています。そして、私自身も多くの支えに感謝し、人と人との出会いを今以上に大切にしながら、日々前進していきたいと思っています。

### グリーンコープかごしま生協





青果産地協議会で春から夏の青果について出荷内容を話しあった  
(2009.11.6)



根物部会のように。里芋の出荷基準について目あわせをする  
(2009.10.29)



グリーンコープ青果  
生産者の会

# 共に未来をつくっていく パートナーとして

グリーンコープの産直は、生産者と消費者の顔の見える関係を大切にし、お互いの信頼のもとに成り立っています。さらにその青果物のよさを確認するための独自の「グリーンコープ商品生産・製造認証システム」を確立させることで、信頼をより確かなものとしています。

グリーンコープと生産者が20年以上の経過の中で積み上げてきた産直の歴史を振り返りながら、グリーンコープ青果生産者の会（以下青果生産者の会）の活動を紹介いたします。

**グ**リーンコープの産直は「作っている人や栽培方法が明らか」「生産者と組合員が交流できる」「生産者に産直提携の実感がある」という点が一般に言われる「産直＝産地直送」とは違うところがあります。中でも、「生産者が産直を実感できる」ということがグリーンコープの「産直」の大きな特長となっています。それは生産者とグリーンコープが事前に決めた量を再生産可能な価格で取り引きし、その代金が直接生産者の手元に届くということです。こうして、生産者は自分の生産物が組合員に届く手応えを感じることができ、産直提携を実感できます。それが結果的に、安定した農業を営むことにつながっています。

## 産直の歴史を遡る

公害や農業などによる環境汚染が社会問題化した1970年代、農業従事者の中には、農薬が人体に及ぼす影響への不安から農薬をできるだけ使わない農業をめざす人たちが現れました。グリーンコープの前身生協の頃から、組合員も農薬の心配のない新鮮で安全な野菜を求めていました。そんな生協と生産者との出会いが今のグリーンコープの産直のベースを築いてきたと言えます。これによって組合員は安全な農産物を食べることができ、生産者は生産物の販路を得ることができるようになりました。

生協と生産者はそれぞれが自立しながら助けあうことでよりよいものを作っていくと努力し、より連帯した関係へと発展させていきました。生協によつては「青空市場」が誕生し、直接取り引きをする中で双方の関係性をつくり上げていきました。1988年、グリーンコープ設立に伴って、青果の取り引きも形を変え、葉ものなども共同購入できるようになりました。

試行錯誤しながら築いた生産者と生協の産直関係はグリーンコープが成熟していく中で深化していききました。そして、現状の仕組みに慢心することなく、常に向上心をもって前向きにすすむことにしました。

2001年、よりよい関係構築に向け、大きく見直しをすることになりました。それが「青果再編」と呼ばれる大改革です。適地適作を基本に出荷品目・産地・時期の見直し、産地配置の組み換えなど、継続的に見直す仕組みにしました。それによつて生産者は意欲的になり、例えば「曲がったきゅうりや虫食いだらけの青菜まで出荷基準内としたら今後の全体の売上にかかわるのでは」という声が生産者から出されるなど、よい野菜を組合員に届けたいという生産者の意欲が高まるようになりました。こうした前向きの姿勢が青果生産者の会の活動へとつながりました。

## グリーンコープのもう一つの主体

青果生産者の会の母体となる組織が誕生したのは1986年、初めは農協などの事務局が支えていましたが、後にはグリーンコープが補佐をしながらも独自で運営されました。1998年には新生「青果生産者の会」が発足、生産者が主体的に運営するようになりました。2001年、青果再編と同時にグリーンコープ全域の青果生産者を対象とした組織となり、グリーンコープのパートナーとして活動。現在、74のグループへと成長してきました（2009年5月現在）。生産者が個々で、あるいは生産者グループだけでは解決できない問題を共に考えます。積極的に技術交流会やさまざまな研修会なども開催し、研鑽を積んでいます。

産直野菜のすばらしさを伝えるためにグリーンコープ産直生産者グループ「やまびこ会」女性部のみなさんが野菜ソムリエの資格を取得しました!!



やまびこ会の「れんこん料理講習会」は、れんこんの利用普及をするために生産者自らが立ち上げた取り組みだ。20年前、熊本ではじまった料理講習会。今では、南は鹿児島から北は大阪までグリーンコープ全生協に広がった。それを一手に担っているのは10人の女性部のみなさん。れんこんの収穫がはじまる9月から翌年の1月までの5ヵ月間、メンバーは「花組・月組・星組・雪組」というグループに分かれて、グリーンコープのエリア内約40ヵ所を精力的に飛び回る。日常から離れて過ごす時間は、忙しいけれど刺激になると話す。組合員も楽しみにしている取り組みだが、それ以上に生産者も意気込みを持って臨んでいる。

その女性部のメンバーのうち7人が忙しい農作業の合間を縫って講座を受け、野菜ソムリエの資格を取得した。れんこんだけではなく、広く産直野菜のよさを多くの人に伝える自信にもつながる。この資格を取ったことで、やまびこ会として安心・安全な産直野菜への栽培意欲に拍車がかかることは間違いない。

出荷内容について検討する場合「青果産地協議会」です。年2回（春と秋）、グリーンコープが主催し、全生産地の生産者が一堂に会して行われます。

組合員に届けられる青果物は、組合員による青果チェックモニターや青果センターで入念にチェックされます。それをもとに各産地の出荷状況について判断し、品目配置ごとに出荷する量や期間などを見直します。天候の影響も考慮しながら、欠配の多かった産地は、次のシーズンには出荷量を減らしたり、余力のある場合、希望するところは増やしたりします。新規参入の産地の場合、数年間は判断せずによろすを見ます。また、新しい野菜の作付けも提案され、希望する産地を募集します。

このように、生産者にとつての適地適作は、各産地にとつて無理がなく生産者は安心して作付け・出荷でき、組合員もできるだけ欠配がなく、青果を受け取ることが出来ます。農薬使用や、大きさ、規格など、出荷基準についての見直しも必要に応じて検討します。

生産者はグリーンコープとこうした持続的な取り引き関係を紡ぐことで、安定した経営ができていと言えます。それによつて多くの産地に後継者が育っています。これは高齢化がすすみ、後継者がなく離農する人が多い日本の農業の現状では稀有なことです。

グリーンコープの事業を充実させていくことと生産者の自立は表裏一体です。グリーンコープが社会的に認知されていく歩みと共に生産者も元気にすすんできました。これからもそれぞれの立場で産直の仕組みを強化しながら、さらにパートナーとしての連帯を深めていきます。

## 対等な関係で 出荷内容を検討する 青果産地協議会

グリーンコープと生産者



## 高齢者福祉学習会 グリーンコープ共同体 福祉委員会

# ぼけても普通に暮らしたい

2009年11月19日、グリーンコープ共同体福祉委員会主催の高齢者福祉学習会が福岡市で開催されました。福岡市にある「第2宅老所よりあい」所長である村瀬孝生さんを講師に、地域の中の高齢者福祉の現状と今後のあり方について話を聞きました。  
講演の概要を紹介します。



村瀬さんのユーモアあふれる話に、お年寄りへの愛情あふれるまなざしを感じられ、会場は笑いの中にも、時に涙や溜息に包まれた

**高齢者を  
孤立させない社会に**  
お年寄りの記憶があいまいになると、「ぼけ」でも「痴呆症」でもなく「認知症」と総称して呼ばれます。しかしそれには違和感があります。

「ぼけ」は、認知症という「病気」ではなく、老いの過程で誰にでも起こる「物忘れ」だと考えています。物

高齢者を

孤立させない社会に

忘れがはじまって孤立すると、精神が破綻していき、日常生活に支障をきたしてしまいます。そうすると社会生活が難しくなりますが、それはその人が問題なのではなく、その人を孤立させる社会が問題なのです。

高齢者は短期記憶力が衰えるため、新しいことは覚えにくいのですが、何年も続けていることは習慣として身に付いているので生活していくことができます。高齢期の介護の要は、生活習慣を変えないことです。その中で新しい人と出会い、新しい習慣をつくっていくのはいいんです。孤立させると新しい習慣が身に付かず、ますます家にこもり孤立が深まるという悪循環が今の日本社会にあります。



村瀬 孝生さん

1964年島根県生まれ。東北福祉大学卒業。福岡県飯塚市の特別養護老人ホームに8年勤務。1996年より「第2宅老所よりあい」所長。

著書  
「ぼけてもいいよ  
—「第2宅老所よりあい」から」  
ほか

否定せずに

折りあいをつける

明治以前は、ぼけがはじまった老人を「祖先様になる一歩手前の人」としてとらえ、間違っているとしても否定するのではなく、メンツを潰さないように折りあいを付ける「老いの文化」がありました。近代医療によって、その文化は様変わりし、間違いを理解させることに終始するようになってしまいました。

今、日本人の多くが、ぼけたり寝たきりになることへの不安に駆られ、老後も健康でなければならぬと思ひ込んでしまっています。それで明日死ぬかもしれないおばあちゃんに、糖尿病が悪化するからと言って、アンパンを食べさせないというようなことが起こっているのです。

明日を生きたるために日常生活を管理することは、お年寄りの主体性を奪い、結果、生きる気力を失わせることになります。「血糖値が上がるからダメ」という言葉で否定するのではなく、気持ちに寄り添って「アンパン食べよう。でも半分は私にちょうだいね」と言えるの、いい介護だと思っています。

命を寿ぐ

きぬさんというおばあさんが、91歳で「宅老所より

あい」に入所して、96歳で亡くなりました。家族の意向もあり、亡くなる前の医療行為は一切しませんでした。きぬさんも自分の死が間もなく来ることを知っていて、私たち職員に別れのあいさつをしていました。職員も、家族も、心の準備をして、その時を迎えました。そして皆に見守られて静かに永遠の眠りにつきました。「寿命」という字は「命を寿ぐ」と書きますが、きぬさんは「寿げたんだ」と思いました。

老いて死ぬ者が、自然に、穏やかに死を迎える、そういう時間をつくること、それが、これから私たちがしなければならないことだと思っています。

地域でお年寄りを  
見守る社会に

老人介護は専門家でも一人ではできません。家族や地域の人たちの協力が無いと無理です。また、家族にとつて、厳しくやさしかった親がだんだんとぼけていくのは受け入れ難いものです。やさしく接しなくてはいいけないと分かっていながら、イライラしてきつい言葉で叱ったりしてしまいがちです。そんな場合、いい介護をしようとしなくていいんです。泣いて、笑って、怒った方がいい。ただ、一人で抱え込むことだけはしてはいけません。そのためには近所の人にも協力してもらって、お年寄りを孤立させないようにすることが大事です。

人の手を借りながら、地域でお年寄りを見守ることが、これからの社会には必要だと思っています。



No.18

## もし 原発が事故を起こしたら・・・

今日では標準となった100万kwの原子力発電所の場合、1年間の運転で約1,000kgのウランを燃やし続けています。これは広島に投下された原爆で燃えたウランの800gと比べ約1,000倍の量です。この原子力発電所がもし事故を起こすと、どうなるのでしょうか？1986年4月に旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所で、恐れていた事故が起きてしまいました。出力100万kwのチェルノブイリ4号炉は、定期検査の途中に行った出力調整実験によって、制御不能に陥り、爆発してしまいました。極めて広範囲にわたる地域を放射能で汚染し、8,200km離れた日本でも雨水中から放射性物質が確認されました。現地では、多くの人が被曝し、その後も成長期の子どもの甲状腺がんの急速な増加や、被曝の後遺症、出産による次世代への影響など、現在も不安な状況が続いています。子どもたちの未来のために、チェルノブイリの悲劇を二度と繰り返してはいけません。私たちができることは、脱原発社会をめざすことだと考えます。

参考文献  
広瀬隆 「原子力発電で本当に私たちが知りたい120の基礎知識」  
小出裕章 「私と原子力発電」

グリーンコープ共同体組織委員会

投稿欄

## 投稿募集中

●私の好きな  
グリーンコープ商品

- 400字程度
- バッチ 毎月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561  
福岡市博多区博多駅  
中央街8-36博多ビル7F  
グリーンコープコミュニケーション  
ワークス連(REN)  
「共生の時代」編集部 宛

FAX 092-481-7876  
Eメールアドレス  
rikoho@greencoop.or.jp

## 言・い・た・い

私の好きな  
グリーンコープ商品

手づくりのきつけ

私は5歳、3歳、1歳の3姉妹の母親です。現在の好きなグリーンコープ商品は「牛乳」です。



手軽な天むす

カタログに載っていると必ず注文するのが「えびフリッター」。



ある日カタログを見ていて、えびフリッターで天むすができるのではないかと思い注文しました。作り方はとても簡単です。フリッターを凍ったままオーブントースターで焼き、熱いうちにめんつゆに浸します。ご飯をラップを敷いた茶碗に乗せ、フリッターを具に小さなおにぎりを作る要領でにぎります。その時フリッターが見えるようにして、小さめののりでくるみます。ご飯はゆかりやおかかを混ぜてアレンジもできます。わが家では主人が毎日お弁当を持っています。初めて天むすを入れた日は「今日天むすおいしかったね」と言われました。

フリッターは1袋に20個くらい入っていますので、行楽弁当にも使えます！市販で買うのとは値段がまったく違います。どうぞお試しください。

グリーンコープ生協(長崎)

荒木 由香

グリーンコープ生協(福岡)

坂井 真紀子



いま地域を考える

No.197

## 大きな家族が集う場所



2009年度3回目になる今回のテーマは「根っこを育てる親子遊び」。1回目は「子どもの心を感じる子育て」、2回目は「子どもの成長と子育ての見通し」をテーマに行った。写真中央が上野さん



「おててつないでたかいたか〜い！腰を持ってくるりんこ！」セミナーの会場では参加者が親子遊びに夢中。大はしゃぎする子、びっくりして泣き出す子、会場はおもちゃ箱をひっくり返したようだ



キッズの森（キッズクラブ）の拠点は、元は畳屋さんの倉庫で豊かな自然に囲まれた環境の中にある

**子育て仲間が広がる**  
活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

「キッズの森」（代表 松永純明さん／グリーンコープ生協さが組合員）は、佐賀県大和町で活動するNPO法人だ。主な事業は、学童保育「キッズクラブ」、子育てネットワーク「そらまめ」、一時保育と子育て相談、子育て講座や親子映画会の企画などだ。キッズの森が企画する「子育て・親育ちセミナー（第3回目／全4回）」取材し、理事のひとりである上野真理さんに話を聞いた。



**キ** ッズの森は仲間と共に支えあひながら、子育て支援の輪を広げる活動をしている。子どもだけではなく、子育てにかかわる大人たちが集う場所ともなっている。運営を担うのは代表と4人の理事だ。理事のひとりでもある上野さんは「キッズクラブ」の指導員で、キッズの森すべての事業にかかわり、実務を一手に引き受けている専任のスタッフだ。普段は自分の仕事をしている3人の理事は、春祭り、夏祭り、子育て講演会、キッズギャラリーなどのイベントをそれぞれ担当する。代表の松永さんは、そのすべてがうまく運ぶように支える。会員は約40人。会費や寄付、バザーやギャラリーの作品販売や講演会、その他の収益で運営費を賄っている。

キッズクラブの子どもたちが思いっきり遊ぶ倉庫の中。2階では講演会やギャラリーなどのイベントなどを行い地域に開放する



活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

活動のはじまりは今年から迎えること15、16年、同じ保育園の保護者たちの出会いからだ。上野さんもその中のひとりで、その後保育園に併設された学童保育の指導員をしていた。児童養護施設の保母として7年、障

## 2009年11月の組合員数 415033人

(11/25現在)

## リユース リサイクル データ

2009年10月分

| 牛乳びん          | リユースびん        | トレー           | モールドバック       |
|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 回収本数 832,302本 | 回収本数 206,224本 | 回収重量 12,183kg | 回収重量 37,440kg |
| 回収率 98.2%     | 回収率 63.5%     | 回収率 69.8%     | 回収率 92.3%     |

放射能汚染食品測定室検査。  
NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。  
※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

| 検体名     | 産地    | セシウム134 | セシウム137 | 合計<br>ベクレル/kg |
|---------|-------|---------|---------|---------------|
| ※ バレイシヨ | 北海道   | ND      | ND      | ND            |
| ※ れんこん  | 熊本県   | ND      | ND      | ND            |
| ※ コーヒー豆 | 南米    | ND      | ND      | ND            |
| ※ コーヒー豆 | エチオピア | ND      | ND      | ND            |
| ※ ココア   |       | ND      | ND      | ND            |
| ※ 紅茶    | インド   | ND      | ND      | ND            |
| ※ 紅茶    | スリランカ | ND      | ND      | ND            |
| ※ みかん   | 福岡県   | ND      | ND      | ND            |
| ※ みかん   | 熊本県   | ND      | ND      | ND            |
| ※ 人参    | 宮崎県   | ND      | ND      | ND            |